



菅原 隆文
(よねしろ会)

二ツ井・白神ICを 観光や産業に生かせ

質問 琴丘能代道路の全線開通により、高速道路網の出入口として利便性が向上し、通行量も増加する。世界遺産白神山地の玄関口、桜のきみまち阪等、二ツ井の観光を位置づけ整備し、温泉や宿泊施設を充実させ、観光や産業の振興を図るべき。

答弁 所要時間の短縮、ルート選択肢の増により、総合的な交通量の増加も見込まれるほか、二ツ井白神インターという白神山地への本市の玄関口がまた一つふえたことになることから、道の駅ふたついやきみまち阪、七座山など二ツ井地域の観光資源を引き続きアピールし、白神山地を目指す観光客からもより目を向けられるよう努力していきたい。同時に、開通により短時間での移動が可能となったので、風の松原や檜山地域など他の観光素材との連携、さらには五能線や森岳温泉などの広域的観光素材との連携を図りながら誘客に努めていきたい。

企業誘致の 現状と可能性

質問 市の企業誘致促進制度は有効に働いているか。人口10万8000人で上場企業が10社以上誘致され、工業出荷額が能代の10倍の4500億円という例もある。国県の誘致の担当と密接な連絡を取り合っているか。可能性のある具体的な企業は。

答弁 企業誘致の助成金について本市の場合、金額に限界がある中で、対象業種の拡大等、企業のニーズに適切に対応できる助成制度となるよう、内容等について検討を重ねている。企業誘致は人のつながりが非常に大きな要件になると思っており、県の担当はもちろんのこと、本市出身者等との連絡を密にするよう努力しており、こうしたことから現在、本市への進出を検討する企業が幾つか出てきている。県北地域の市町村等とともに資源リサイクル・医療関連産業及び木材関連産業について、既存の集積を生かし、さらなる集積を進めるための取り組みを準備している。

菅原議員のその他の質問事項

- 若者の考えを新市総合計画に生かせ
- 二ツ井協議会のあり方と振興計画



庄司 紘八
(市民の声)

中心市街地活性化 ビジョン策定事業は

質問 このたびの予算は実施可能な素案づくりをしなければ、市民から「行政のやることはこんなことか」と見放されてしまう。実行可能で市民が納得し得る素案を示し、民間と行政が手を携えて中心市街地活性化に邁進できる提案をいただきたい。

答弁 関連部署が連携しながらビジョンの策定に取り組むため、庁内実務者会議を立ち上げ、総合計画との整合性を図りつつ横断的に取り組んでいる。中心市街地活性化推進協議会はこれまで2回開催し、今後、もう2回の協議会を経て、ビジョンのとおりまとめをしたいと考えている。総合計画の部門別計画と位置づけし、概ね10年程度の長期的な見通しの中で、中心市街地の課題から基本方針を導き、将来像を展開するとともに、将来像を実現するために必要な基本施策及び施策を重点的に展開すべき区域を掲載する予定としている。

行財政改革大綱 (素案)

質問 62項目にわたる素案はどれを見ても必要であり、また時間をかけていられない喫緊の課題である。この大綱をだれが実行に移すかが問題である。職員はもちろん、上司が重要で、前例を踏襲せず、慣例をつくりかえることが改革に対する覚悟かと思うが。

答弁 行財政改革とは、現状を整理し選択を加えることにより、総合計画の実現に必要な財源やマンパワーを確保することであるが、改革を内向きの一過性のものにしたためには、市の組織においてリーダーシップが適切に発揮されることに加え、すべての職員が、前例や慣例にとらわれず、進むべき正しい方向を、みずから見出して変わっていく能力を持つことが非常に重要だと考えている。そのため、市役所という装置を動かす仕組みを取りかえるつもりで、職員がその能力をより発揮していけるような環境づくりや、意識改革を行い、行財政改革が内発的に継続していくよう根づかせたいと考えている。

庄司議員のその他の質問事項

- 市職員の異動と適材適所
- 行政のスピード感覚について
- 校舎建築後の現状と補修対策は